

自治体、学際的研究者、自死遺族、地域の支援者の協働による
ボトムアップの科学的かつ公平な自殺対策ネットワークの構築

研究代表者：竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）

学び、つながり、つくる —自殺対策基本法20周年に向けて

趣旨：2023年度統計数理研究所共同研究集会「持続可能な自殺対策の構築—自殺対策基本法20周年に向けて」では、自死の実態分析、未遂者支援、子ども・若者の自死予防、人材育成と啓発、当事者と協働した研究と対策、自殺対策の評価などについて検討し、次のことに取り組む必要があるとまとめた。

- (1) 自治体、学際的研究者、自死遺族、地域の実務者の協働によるボトムアップの科学的かつ公平な自殺対策ネットワークの構築
- (2) 自殺対策の政策決定プロセスへの遺族の参加促進、自死の研究と対策における倫理、自殺対策の安全性に関する議論の促進
- (3) 群発自死の防止の研究と実践
- (4) 現場に利用しやすい科学的な自死の実態のモニタリング構築

研究集会の終了後のアンケートには、(1)のネットワークの構築に多くの賛同があった。このことを踏まえ、自治体、学際的研究者、自死遺族、地域の実務者の協働による科学的かつ公平な自殺対策ネットワークの構築の始点となる共同研究集会を開催する。

この共同研究集会は自殺対策をテーマとしているが、自殺対策と同様、社会の様々な分野の関連する複雑な問題の対策を考えるうえでも役立つものであり、その対策はまた自死予防にもつながっていく。

日時：12月13日(金) 9:30–19:00

14日(土) 9:30–14:40

会場：川崎市役所ホール／ハイブリッド開催

神奈川県川崎市川崎区宮本町1番

参加者数：現地参加100名

※「現地のみ」と書かれたプログラム以外はウェブ視聴可

参加費：無料

参加申込は
こちらから



12月13日(金) 9:30-12:10 / 13:00-19:00

9:30	挨拶等
9:40	基調講演1「ボトムアップによる科学的かつ公平な 自死対策ネットワークの構築へー自殺対策基本法20周年に向けて」 竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）
10:10	休憩
10:20	基調講演2「問題解決学としての統計学ー自死対策への活用」 椿広計（統計数理研究所）
10:50	休憩
11:00	講演1「地域でこども・家庭を見守る」 山下護（こども家庭庁支援局総務課）
11:30	休憩
11:40	講演2「学校における予防教育」 窪田由紀（九州産業大学）
12:10	休憩（昼食）
13:00	講演3「全体／選択／個別的予防介入モデルから見た 地域の自死予防活動の構造と有効性」 大山博史（青森県立保健大学）
13:30	休憩
13:40	講演4「自死対策の評価」 南島和久（龍谷大学）
14:10	休憩
14:20	特別講演1「台湾における自死対策」（逐次通訳あり） Shih-Cheng Liao（国立台湾大学医学部精神科） 座長：竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）
15:40	休憩
15:50	特別講演2「災害支援、自死予防ー宗教者の活動と連携」 島藺進（大正大学／宗教者災害支援連絡会） 座長：野村恭子（秋田大学／日本公衆衛生学会メンタルヘルス・自殺対策委員会）
16:30	休憩
16:40	分科会「自死対策の基礎ーひとと地域を大切にされた対策を進めるために」（現地のみ） 自治体職員、研究者、自死遺族、地域の実務者等で構成する2つのグループに分かれて、 参加申し込み時の分科会で話し合いたい内容についてのアンケート結果を皮切りに、 ボトムアップの科学的かつ公平な自死対策ネットワークの構築について話し合う。 <グループ1> 小高真美（武蔵野大学）、高井美智子（埼玉医科大学）、竹本了吾（認定NPO法人京都自死・自殺 相談センター）、田中幸子（一般社団法人全国自死遺族連絡会）、辻本哲士（滋賀県精神保健福祉セ ンター）、橋本貢河（川崎市）、三浦由佳（徳島県精神保健福祉センター）、山内貴史（東京慈恵会 医科大学）、自治体職員等 <グループ2> 明英彦（一般社団法人全国自死遺族連絡会）、大塚尚（東京大学）、岡檀（統計数理研究所）、小川 有閑（大正大学／蓮宝寺）、勝又陽太郎（東京都立大学）、齋藤真哉（埼玉県立精神保健福祉セン ター）、中村征人（愛知県春日井保健所）、南島和久（龍谷大学）、自治体職員等
18:40	追悼と感謝（現地のみ） 小川有閑、竹本了吾、田中幸子

12月14日(土) 9:30-12:00 / 13:00-14:40

9:30	<p>円卓会議「自死した大切な人のその命を無駄にすることなく 優しい人が優しいままで生きられる世の中に変えていくために」 問題提起「自死遺族等の個人情報の取り扱いについて」 田中幸子（一般社団法人全国自死遺族連絡会） 指定討論「社会技術の共創の視点から」 小出直史（大阪大学社会技術共創研究センター [ELSIセンター]） 話し合い 座長：竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）</p>
12:00	休憩（昼食）
13:00	<p>円卓会議「学び、つながり、つくる —ボトムアップの自死対策ネットワークの構築に向けて」 座長：勝又陽太郎（東京都立大学）、大塚尚（東京大学）</p>
14:30	<p>挨拶 竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）</p>

共同研究集会では、法令などを除いて「自殺」でなく「自死」を用いることとしました。自殺総合対策大綱において「自殺は、その多くが追い込まれた末の死である」との認識が示されています。つまり、本人の自由意思による能動的な行動によるものではなく、むしろそうした自由意志が環境との相互作用の中で制限され、能動性や他行為可能性が欠如した状態で生じる死の一形態として捉えようとする姿勢がうかがえます。もしかすると「自死」よりもさらに適切な表現があるのかもしれませんが、今後も私たちはそれを模索していく必要があるのだらうと思います。しかし、その模索中にある現状においては、少なくとも能動性を強調しやすい他動詞の「殺す」という言葉を使用せず、能動性を想起させづらい「死」という言葉を使うことの方が、わが国の対策の趣旨に沿うのではないかと考えます。

2024年度統計数理研究所公募型共同利用採択課題2024-ISMCRP-5012

自治体、学際的研究者、自死遺族、地域の支援者の協働による
ボトムアップの科学的かつ公平な自殺対策ネットワークの構築

研究代表者：竹島正（川崎市総合リハビリテーション推進センター）

学び、つながり、つくる —自殺対策基本法20周年に向けて

後援・協力：一般財団法人日本公衆衛生協会
(50音順) 一般社団法人自殺予防と自死遺族支援・調査研究研修センター
一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会
一般社団法人日本公衆衛生学会
全国精神保健福祉センター長会
全国保健所長会